

# 山里の 都市性と 人・モノの 循環構造

その開放性をめぐって



二世紀第二・四半期の現在、過疎と高齢化、また山仕事・山林労働が弱体化・解体する中で、山里は消滅の危機に瀕し、孤立した限界集落として捉えられている。

しかし歴史的にみると、近世から高度経済成長期直前まで、伝統社会が色濃く残存する中で、の山里は、都市や農村とは異なる、固有の生業を社会基盤とし、効率的な密度分布と集落内外を縦横に走る道を通じた開放的な空間構造を有する場であった。

本シンポジウムでは、こうした伝統社会における山里の固有性の基礎にあるものを、「都市性」という視点から捉えなおし、山里の社会・空間の特質を説明することを試みる。

12月7日 土

10:00—14:30 山里集落・建造物巡見 ※JR中央本線中津川駅集合、マイクロバス分乗、昼食代1,000円

16:00—17:00 都市史学会総会（会員限定） ※終了後18時より湯元ホテル阿智川にて懇親会を開催します。

12月8日 日

9:00—10:30 研究発表

10:45—11:55 基調講演 木の近世——伊那山の都市性を考える | 吉田伸之（東京大学名誉教授）

司会=中野隆生（都市史学会会長） コメント=陣内秀信（法政大学名誉教授）

12:55—16:00 シンポジウム 山里の都市性と人・モノの循環構造——その開放性をめぐって

司会=羽田真也（飯田市歴史研究所）

趣旨説明=吉田ゆり子（東京外国語大学名誉教授）

山里における街道宿の形成と近代化 | 福村任生（日本大学）

コメント=稲益祐太（東海大学）

十九世紀下伊那地域における櫛生産と荷主 | 角和裕子（世田谷区立郷土資料館）

コメント=塚田 孝（大阪市立大学名誉教授）

近代企業による山林伐採事業の担い手と物資調達

——王子製紙による遠山山林事業の検討 | 太田仙一（税務大学校租税史料室）

コメント=高嶋修一（青山学院大学）

全体討論司会=伊藤 毅（東京大学名誉教授）+多和田雅保（横浜国立大学）

2024年12月7日 土 + 8日 日 阿智村中央公民館ホール + Zoom ミーティング

共催=都市史学会 + JSPS 科学研究費補助事業基盤研究 (A) 課題番号 20H00025 「南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究」(代表吉田ゆり子、通称「山里科研」) 後援=長野県下伊那郡阿智村、阿智村教育委員会 参加費(両日共通)=対面・オンライン一律1,000円

申し込み=都市史学会ウェブサイトより <https://suth.jp/event/convention2024/> お問い合わせ=2024年度都市史学会大会実行委員会 [convention2024@suth.jp](mailto:convention2024@suth.jp)